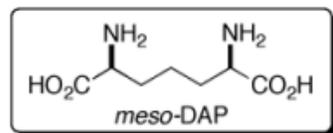


# 27P-am168

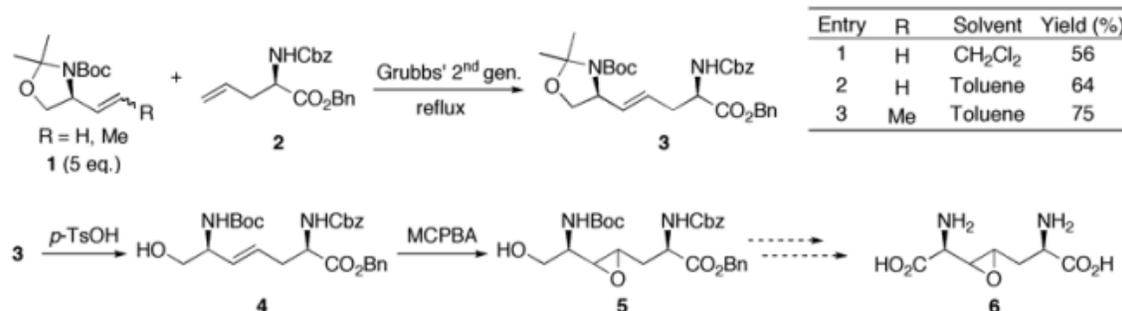
*meso*-ジアミノピメリン酸誘導体の合成研究

○斎藤 有香子<sup>1</sup>, 佐藤 祐美<sup>1</sup>, 今堀 龍志<sup>1</sup>, 吉村 祐一<sup>1</sup>, 高畑 廣紀<sup>1</sup>(<sup>1</sup>東北薬大)

【目的】 *meso*-ジアミノピメリン酸(DAP)は細菌の細胞壁の主成分であるペプチドグリカンの構成分子であり, *meso*-DAP 生合成阻害剤の研究が盛んに行われている。昨年<sup>1)</sup>の年会においてクロスメタセシス反応を用いた *meso*-DAP の合成について報告した。<sup>1)</sup> 今回, 新規抗生物質の探索に伴い, *meso*-DAP 誘導体の合成を企画した。



【方法・結果】 Gamer アルデヒド由来のビニル体 **1** とアリルグリシン類 **2** との Grubbs 触媒によるクロスメタセシス反応を行った。末端にメチル基を導入し溶媒をトルエンに換えたところ, ヘテロカップリング体 **3** の収率が向上した。**3** を加水分解して **4** とし, MCPBA によりエポキシ体 **5** とした。現在, これまでに報告例のないエポキシ含有 *meso*-DAP 誘導体 **6** への変換を検討中である。



1) 日本薬学会第 128 年会 要旨集 2 P145